

法政大学大原社会問題研究所

所 報

(2001.11.1～11.30)

人事 (11月7日付)

異動 豊田 淳子 書記 (保健体育部市ヶ谷体育課に転出)

小川 真弓 主事補 (通信教育部学務課より転入)

刊行物

『大原社会問題研究所雑誌』517号 (2001年12月)

図書受入

| | 和 書 | 洋 書 | 計 |
|-----|-----|-----|-----|
| 購 入 | 88 | 21 | 109 |
| 受 贈 | 123 | 7 | 130 |
| 合 計 | 211 | 28 | 239 |

閲覧サービス

閲覧

開館日数 24日

閲覧人員 44名

貸出図書 64冊

コピーサービス

学外 33件 3229枚

学内 9件 109枚

日 誌

1日 DATEBASE 2001 (於:東京国際フォーラム, 参加:神屋敷昭人)

3日 日本労働社会学会第13回大会 (~4日, 出席:鈴木玲)

7日 『日本労働年鑑』第1回編集会議

17日 加齢過程における福祉研究会

報告者 木次清次氏 (永生病院リハビリテーション科長)

テーマ 「永生病院とイマジンのリハビリテーションの現状と課題」

報告者 遠藤孝氏 (老人保健施設イマジン作業療法士)

テーマ 「イマジンにおける維持期のリハ

ビリテーションをめぐる」

19日 山田聡子氏 (故山川曉夫氏夫人)より細川嘉六旧蔵書30冊を受贈

20日 業務研修会

『ポスターの社会史』について

講 師 梅田俊英, 野村一夫

21日 運営委員会

議題 諸報告

大原社研「中期計画 (素案)」について

その他

22日 経済資料協議会研修会 (於:東京大学経済学部, 参加:西村雅史)

27日 事務会議

28日 研究員会議

月例研究会

報告者 早川征一郎

テーマ 「いわゆる成果主義賃金について」

29日 国民文化会議より図書資料を受贈 (段ボール10箱)

大原社会問題研究所雑誌 No.520 (2002年3月号)

2002年3月25日発行

定価 1,000円 (本体952円), 年間購読料12,000円

編集(兼)発行人 法政大学大原社会問題研究所

所長 早川征一郎

〒194-0298 東京都町田市相原町 4342

電話 042 (783) 2307

投 稿 募 集

本誌は社会・労働問題に対する論文、調査報告を募集しております。下記の規定に基づいてご投稿下さい。

投 稿 規 定

1. 投稿原稿は2部とし、ワープロ作成による未発表のものに限ります。
2. 原稿の分量は、原則として20,000字以内（図表を含む）とします。
3. 原稿には、審査に資するため、600字以内の要約を添付してください。
4. 原稿の採否は、本誌編集委員会が指定する審査員の査読を経て、本誌編集委員会が決定します。
5. 初めて投稿される方は、研究歴など簡単な履歴を添付してください。
6. 掲載原稿には、所定の原稿料をお支払いいたします。

【原稿送付先】

〒197-0298 東京都町田市相原4324
法政大学大原社会問題研究所
『大原社会問題研究所雑誌』編集委員会

論 文 執 筆 要 領

論文を執筆される場合には、下記の点に留意してください。

執筆者校正の際には、原則として原稿を返却しませんので、原稿のコピーを確保しておいて下さい。

原稿をプリントアウトする場合には、ある程度の行間を取って下さい。

- 1 一般的な原則
 - 横書きとする。
 - タイトル、氏名の次に簡単な目次をつける。
 - 原稿の最後に、執筆者名（ひらがな）、肩書き（所属、職名）を記入する。肩書きは大学の場合には、学部、研究所等の名称まで表記する。
 - 注をつける場合には、各章ごとに分割せず、最後に一括し、通し番号をつける。
 - 図、地図などは、可能な限りトレース済のものを提出する。
- 2 注記の方式
 - 日本語の図書・論文の場合
 - A. 日本語で書かれた図書については、著者名、書名（書名は『 』で囲む）、出版社名、発行年（原則として西暦）の順に書く。ページ数を記入する場合には、発行年の次に記入する。
 - B. 著者が2人の場合には、両者の姓名を書く。3人以上の場合には、「 他」の方式も可とする。
 - C. 論文については、執筆者名、論文名（「 」で囲む）、掲載雑誌名（『 』で囲む）、巻号、発行年月日の順に書く。
 - D. 注の最後は、かならず「。」で止める。
 - 欧文の図書・論文の場合
 - A. 欧文の図書については、著者名、書名、発行地（あるいは出版社名）、出版年を書く。書名は、イタリックにするので、下線を引くなどして書名の部分を他の部分と区別する。
 - B. 論文の掲載雑誌名は、イタリックとする。
 - C. 再出を示す「ibid.」「op. cit.」などもイタリックにする。
 - D. 注の最後は、かならず「。」で止める。

以上